HITACHI
Inspire the Next

日立システムズは、未来を創る若者の挑戦を応援し、文化面から復興を支え、「希望の響き」をお届けします。

日立システムズが2013年にネーミングライツを取得した「日立システムズホール仙台」において、3月21日（木・祝）に東日本大震災復興祈念チャリティーコンサートを開催。世界的メゾ・ソプラノ歌手キャサリン・ジェンキンス氏を迎え、地元の中高生で構成された「希望の響き合唱団」との共演も実現。音楽に託した復興への思いがひとつになって、ホール全体を感動で満たしました。

「希望の響き合唱団」（宮城第一高等学校、仙台二華中学校・高等学校、仙台三桜高等学校）とジェンキンス氏。初共演ながら見事なハーモニーを響かせる。

歌姫と若者たちの息の合った共演で、「希望の響き」が、ホールに満ちる。

2014年にスタートしたシリーズも6年目に。ジェンキンス氏の再訪で、よりメモリアルな年に。

「文化面からの復興支援」という思いを掲げ、日立システムズが「希望の響き」シリーズをスタートしたのは2014年。以来、「日立システムズホール仙台」を活動の拠点に、復興の担い手となる若者の人材育成への貢献をテーマに毎年さまざまなイベントやコンサートを開催してきた。

6年目の今年は、クラシックと、異なるジャンルの音楽を融合させたクラシカル・クロスオーバーの世界的な人気歌手キャサリン・ジェンキンス氏を迎え、仙台市内の中高生約60名で構成された「希望の響き合唱団」との共演を実現した。ジェンキンス氏はチャリティー活動にも熱心で、東日本大震災直後の2011年12月にも来日し、宮城県内の小学校2校を慰問している。

コンサート前半は、ジェンキンス氏が「ハバネラ」「オ・ソレ・ミオ」「タイム・トゥ・セイ・グッバイ」などを含む9曲をソロで熱唱。後半の1曲目に登場したのが、「希望の響き合唱団」だ。モーツァルトの賛美歌を清らかに歌い上げた後、ジェンキンス氏が華やかな深紅のドレスで再登場し、初共演となる曲「天使への嫉妬」が始まる。ぴたりと息の合った素晴らしいハーモニーは観客600人から大きな拍手が送られた。

アンコールの「アメイジング・グレイス」では再び合唱団が登場。ジェンキンス氏には、2011年の慰問の際に触れ合った少女たちからの花束贈呈のサプライズもあり、復興支援のコンサートの一夜となった。

なお、売上げの一部は、震災復興支援のために寄付する。

続けることで、支えてゆく。これからも「希望の響き」を子どもたちへ。

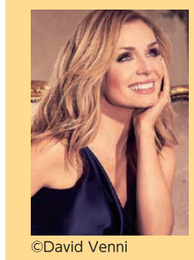
「日立システムズホール仙台」を拠点に、文化面からの復興支援活動を通して若者の成長をサポート。

世界的なメゾ・ソプラノ歌手 キャサリン・ジェンキンス氏

仙台市が東日本大震災からの復興に向けた自立的な財源を確保するために実施したネーミングライツ（施設命名権）によって、「仙台市青年文化センター」が「日立システムズホール仙台」の愛称で新たなスタートを切ったのは2013年7月のこと。日立システムズはこのホールを拠点に、地域振興とともに、復興を担う若者の人材育成への貢献を基軸とした文化面からの復興支援を継続して行ってきた。

とりわけ、「子どもたちにプロとの共演の機会を」というポリシーのもと、2014年から2017年までは世界中の若き演奏家の育成で知られるニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルを招へいし、地元高校生との共演を実現。そして今回、キャサリン・ジェンキンス氏を迎えるに至った理由としては、ジェンキンス氏が2011年に岩沼市・玉浦小学校と仙台市・七郷小学校を訪問の際、歌を通じて、未来を担う子どもたちを勇気づける姿勢に共感したことが挙げられる。

今回のコンサートで共演した高校生の合唱団は、かつてジェンキンス氏が触れ合った小学生の同世代だ。子どもたちの成長は、過去と現在、そして未来をつなぎ、継続した支援の重要性を示唆するものとなった。


キャサリン・ジェンキンス〈メゾ・ソプラノ〉
Katherine Jenkins

教会の聖歌隊員として声楽を学び、いくつかの合唱団に参加。2003年、ヨハネ・パウロ2世のローマ教皇就任25年記念式典で歌ったことで、世界的な音楽シーンに登場する。2016年には、エリザベス女王90歳記念式典でも歌声を披露。世界で最も多作なクラシカル・クロスオーバーの歌手。

©David Venni

玉浦小学校卒業生と8年後の再会。また会う、その日を願って。

サプライズはアンコール曲「アメイジング・グレイス」の合唱のあとに起こった。鳴りやまぬ拍手のなか、舞台袖から花束を抱えて歩み寄った二人の女子高校生は、2011年にジェンキンス氏を迎えた、玉浦小学校の卒業生だった。

当時も同曲の歌をプレゼントされ、モミの木の植樹も一緒に行った。現在、高校2年生の二人は当時のことを「ジェンキンスさんに勇気をもらえて嬉しかった」という。今はそれぞれ、公務員や医療系の仕事に就きたいと、夢に向かって歩み続けている。この日、玉浦小学校卒業生約20名が集合し、ジェンキンス氏を囲んで記念撮影を行った。8年後の再会は、喜びとともに次の再会を誓い、お互いの成長を願う新たなスタートとなった。

大役を果たした「希望の響き合唱団」これからも、勇気や希望を届けたい。

「希望の響き合唱団」の生徒たち

「音符のひとつひとつで通い合っていると感じました。この共演は絶対大丈夫、と肌で感じたのです」。終演後にジェンキンス氏から賛辞を贈られたのは、「希望の響き合唱団」（宮城第一高等学校、仙台二華中学校・高等学校、仙台三桜高等学校）だ。ひとりの生徒がこう語った。「被災したのは小学校3年生のときでした。それから、さまざま支援を受けてきましたが、合唱を始めてからは、チャリティーなどに参加する機会を多く与えていただきました。支援される側から、合唱を通して勇気や元気を与えられる側に。そのことがとても嬉しいです」

日立システムズはこれからも「希望の響き」シリーズを通して、次世代を担う若者たちの成長と夢をサポートし続ける。

日立システムズホール仙台

日立システムズが提供する2つのラジオ番組

東日本大震災 復興支援ラジオ番組

ともに創る未来

2019 Season 7　ミュージシャン 藤巻 亮太氏

Hitachi Systems
HEART TO HEART

TBCラジオ（FM93.5MHz・AM1260kHz）
毎月第4土曜日 19:00～19:55（一部変更の場合あり）

J-WAVE（81.3MHz）
毎月第3日曜日 22:00～22:54

「未来への希望の光」を探る、被災地支援プロジェクト。7年目を迎える今年の番組ナビゲーターは、ミュージシャンの藤巻亮太氏です。熊本地震の被災地にテントを送るプロジェクトへの参加や、西日本豪雨の被災地支援など精力的に活動しています。人々に寄り添う彼ならではの視点で被災地に生まれる新たな潮流を捉え、今なお抱えている問題点を共有することを続けながら、災害とどう向き合い、助け合うべきかを考えていきます。

日立システムズ エンジョイ！クラシック

TBCラジオ（FM93.5MHz・AM1260kHz）
毎月第2土曜日19:00～19:40（一部変更の場合あり）

若い世代にクラシック音楽への興味を抱くきっかけをつくり、文化面からの復興支援につなげるラジオ番組。仙台フィルハーモニー管弦楽団の3名の若きリーダーが交代でメインパーソナリティーを担当し、楽器や音楽の話からコンサートの裏側までクラシック音楽の魅力を分かりやすくご紹介します。

TBCアナウンサー 増子 華子 氏
オーボエ 西沢 澄博 氏 2019年4月～7月担当
ヴァイオリン 西本 幸弘 氏 2019年8月～11月担当
チェロ 三宅 進 氏 2019年12月～2020年3月担当

毎回ゲスト出演する県内の中高生との音楽談義にも注目！

日立システムズは文化面からの復興支援に取り組んでいます。詳細はWebへ　https://www.hitachi-systems.com/company/hibiki/

企画・制作／河北新報社営業局

株式会社 日立システムズ　Human * IT

平成31年（2019年）3月31日（日）　河北新報朝刊掲載